

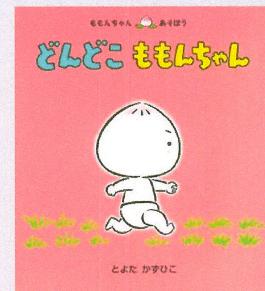
# ぽかぽか おひさま通信



今月の園庭では、いつもの「鬼ごっこ」や「砂場あそび」に加え、土手の草むらで大好きな「虫とり」を楽しんでいる子どもたちの姿がみられています。「オオバコの草相撲」や「シロツメクサの冠作り」など、「おひさまひろば」終了後の園庭開放時に、お楽しみいただけたら嬉しいです。

園長 赤坂 典子

## オススメ えほん のコーナー



絵本「どんどこ ももんちゃん」

作:とよたかずひこ 童心社

毎年入園間もない、ももぐみの子どもたちに帰りの前に読む絵本。

主人公の赤ちゃん「ももんちゃん」の明るさとたくましさがかわいらしいお話です。

ももんちゃんがどんどこどんどこ…まえに進んでいくリズムカルな言葉で子どもたちが楽しそうに見てくれる姿がとても好きです。

また、幼稚園から帰ってきたお子様を、「ぎゅつ」としてお迎えしていただきたいなと思うとともに、私も我が子を「ぎゅつ」と抱きしめたくなります。

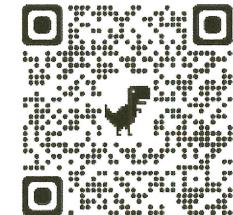
満三歳児クラス担当:浅野千恵

2023年度 Vol.2

発行:聖クリストファ幼稚園

仙台市青葉区小松島3-1-77

022-234-5719



## 紺野先生の子育て講話「楽しく体験」

これまで「足の裏」「口」「道具」の使い方についてお話ししてきました(2022年度バックナンバーをご参照下さい)。「毎日大変なのにそんなことまで気にしている」と思われた方も少なくないでしょう。多くの方は、子どもが自分でできることができてくる頃に「…できない」「…をちゃんとしない」と心配するようになりますし、その心配は子どもが学校に入るとさらに増えています。以前もお話をさせていただきましたが、子どもの「できない」には必ず原因があり、その原因の一つに身体と気持ちがしっかり育っていないことがあります(かなり多いです)。身体と気持ちが育つためには、子どもの頃に色々な経験を体験することが必要で、体験の少ない子どもは上手に動けないことが多い、ちょっと不安そうにしています。面倒臭いと億劫がる子もいます。

一方で、経験が多い子はどうでしょう。体力があり、色々なことを積極的に楽しめます。失敗してもまた挑戦します。その子の性格だけではありません。どの子も育つためにはある時期まで周囲の大人が工夫してあげる必要があります。子どもは勝手には育ちません。また、子どもたちは大人のすることも真似しながら経験を重ねていきます。ですからお手伝いもいい経験になります。(忙しい時はちょっと邪魔に感じると思いますが…)お手伝いをしている子は手際がいいだけではなく、工夫することが上手だったりします。

親子で一緒に過ごす時間は子どもの成長とともに少なくなっています。長いようで短いものです。どうぞこの時期、親子で楽しみながら色々なことを体験させてあげてください。そのなかで、もし子どもの「できない」が気になった時は「どうしてできないのかな?」と考えてあげてください。同じような話を何度も申しあげますが、体験が少ないと困っている子どもたちが多くいるので、再度お話をさせていただきました。

最後に、誰かと一緒に考える方がより良いと思います。おひさまひろばの先生方も相談にのってくれます。もちろん私もです。一緒に考え、「上手に」より「楽しく」体験していきましょう。

【筆者紹介】紺野 真利 先生

「オキュペーションナルサポートげんき」主宰 作業療法士

2014年より、月1回、本園の「うんどうあそび」の時間に、身体の使い方について指導していただいております。

今後の予定: 6月8日 6月22日 7月6日

園見学ご希望の方は園へ問合せ下さい